

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～  
(Ref No : 23-008)

1 月曜日（5月22日）にパプアニューギニアのポートモレスビーで行われた米国と太平洋諸島フォーラム（PIF）首脳との会談において、PIF 議長であるクック諸島のブラウン首相は、米国が太平洋島嶼国への関与をより深化させることを歓迎するとコメントした。同首相は、「待ち望んでいたバイデン大統領の訪問が叶わなかったことは残念であったが、短時間の調整にもかかわらず適切な代表者を参加させた米国政府に感謝している。」と述べた。米国はブリンケン国務長官を参加させた。PIF 首脳及びブリンケン国務長官は、会談後の報道機関に対する共同声明で次のように述べた。「我々は、平和で、調和があり、安全で、社会的包摂があり、繁栄したレジリエントな太平洋地域のための共通ビジョンを再確認し、太平洋の地域主義を強化することを約束し、気候変動などの共通の課題に向き合い、包摂的な経済成長と社会的平等を推進し、共通の優先事項を提唱するために協力を続けていく。我々は冷戦による核の遺産を認識のうえ戦争遺産と核拡散防止に包括的に対処すること、マーシャル諸島で進行中の環境問題、公衆衛生その他の福祉的な懸念事項に対処し続けることを約束する。我々は「ブルーパシフィック大陸のための2050年戦略」を支持し、米国とPIFとのパートナーシップを強化することにおけるその戦略の重要性を認識する。この会談は30年に渡る米国とPIFとの緊密な協力関係のもと構築されており、我々は2023年中に予定されている第2回目のサミットを心待ちにしている。」

[原文](#)

(23<sup>rd</sup> May 2023, Cook Islands NEWS)

2 昨夜（5月22日）、更なるパブリックコメントを求める声があったにもかかわらず、米国のブリンケン国務長官とパプアニューギニアのダキ国防大臣は、ポートモレスビーのAPECハウスで、二国間の防衛協力及びシップライダー協定に署名した。パプアニューギニアのマラペ首相はこの協定について、「両国間のパートナーシップを継続するために重要で、相互に有益であり、我々の国益に資する。1989年の米国との地位協定に基づく従前の安全保障協定を強化するものである。」と述べた。ブリンケン国務長官も同調し、「米国はあらゆる側面から関係性の向上を図っている。」と述べた。

マラペ首相は、協定への署名直前である昨晚も国民を安心させようと次のように述べていた。「この協定は、我々が有する他国との防衛協定、防衛協力関

係、又は二国間関係を終結させるものではない。これは双方向の高速道路のような協定である。」

[原文](#)

(23<sup>rd</sup> May 2023, Radio NZ)

3 5月22日にポートモレスビーで行われたインド太平洋諸島協力フォーラム(FIPIC)サミットで、インドのモディ首相は、12を超える太平洋島嶼国への支援を表明した。太平洋諸島フォーラム(PIF)議長であるクック諸島のブラウン首相が、発表内容を詳細に説明した。同支援には、フィジーに建設される心臓専門病院の建設と運営に加え、透析クリニック、海水の脱塩又は淡水供給、海上救急車、太陽光発電などが含まれる。これら保健支援に加え、今後数年、奨学金が分割支給される。ブラウン首相は、「基本的にはIT分野の資格取得のための奨学金であり、その意味で注目すべき発表である。」と述べた。

[原文](#)

(24<sup>th</sup> May 2023, Radio NZ)

4 先週、パラオの国営放送であるエコパラダイスFMにおいて、センゲバウ副大統領兼法務大臣によるレイヴトレ公安局長へのインタビューが行われた。憲兵としての長年の経験や、その他の治安関係の職務経験について焦点が当てられた。しかしながら、インタビューの中で、彼の学位と卒業大学が明らかにされることはなかった。センゲバウ氏は議会で、局長職には学士号が必要であると述べていた。レイヴトレ氏は以前、大学名称のスペルミスで、「Almeda」を「Alemeda」と誤記して、混乱を招いたと語った。いずれにしても、カリフォルニア州には「College of Almeda」(※2年制大学で、修了すると准学士号が得られる。)しか存在しない。「Almeda University」はアイダホ州にあり、いくつかの州で禁じられている違法な学位を提供しているとされる。彼の学位の正当性に係る疑念は未だ残ったままである。少なくとも母校の卒業証明書は、この暗雲を払拭することができるだろう。

[原文](#)

(23<sup>rd</sup> May 2023, Island Times)

5 韓国の尹大統領は、南太平洋の17か国の首脳らを迎え、協力関係を拡大する方策について議論した。気候変動、安全保障、開発支援に焦点が当てられた。ミクロネシア連邦は台風「Mawar」に見舞われ欠席、豪州とニュージーランドはそれぞれの政府高官が代表を務めた。

月曜日(5月29日)にソウルの旧大統領府で初の首脳会談が行われ、地域の平和と安定を維持しつつ、協力を通じて強靱な太平洋の自由、平和、繁栄のためのパートナーシップを構築するというビジョンを示した共同声明が採択された。また、韓国の「インド太平洋戦略」と太平洋島嶼国の「ブルーパシフィック大陸のための2050年戦略」の相互支持が表明された。さらに、海事、気候、

エネルギー、サイバー、健康その他の分野における協力拡大で合意し、韓国は太平洋島嶼国に対する政府開発援助（ODA）を 2027 年までに 530 億ウォン（約 4000 万ドル）に倍増することを約束した。声明では福島原発の汚染水放出計画に言及し、放射性廃棄物や放射性物質による環境汚染から海を守ることの重要性が確認された。

また、尹大統領は月曜日、クック諸島、マーシャル諸島、ソロモン諸島、ニウエ、パラオとの個別の二国間首脳会談を行った。同大統領は、韓国と太平洋島嶼国が共に太平洋を保護し、持続可能な利用の方法を模索して共有することを提案し、各国に対してカスタマイズされた支援を強化することを約束したと伝えられている。

30 日（火曜日）には、尹大統領と豪州の副首相兼国防相との会談が行われ、防衛とインド太平洋地域における二国間協力について協議がなされた。

さらに、韓国はこのサミットを利用して釜山万博誘致を働きかけており、出席者は火曜日に南部港町の釜山を見て回った。マーシャル諸島とパプアニューギニアは、既に誘致への支持を表明している。

[原文](#)

(30<sup>th</sup> May 2023, Chosun)

[原文](#)

(30<sup>th</sup> May 2023, KBS)

[原文](#)

(29<sup>th</sup> May 2023, KBS)

[原文](#)

(30<sup>th</sup> May 2023, Yonhap)

[原文](#)

(30<sup>th</sup> May 2023, Yonhap)

6 5月24日午後1時20分頃、中国海洋調査船「海洋六号」は、パラオ政府の許可を得ず、事前の通知なく、パラオのEEZに入域し、パラオの法律及び国際法による支配を軽視している。パラオのアンソン国家安全保障調整官は、「同船はパラオに向かって南進してきて、パラオの海底ケーブル上を通過する際に、約1ノットか2ノットまで減速し、疑わしい動きを続け、カヤンゲルの沖約45海里を通過した。VHFでの連絡を試みたが、うまくいかなかった。」と述べた。悪天候のため船艇、航空機を投入することができなかった。

中国海洋調査船によるこのような活動は今回が初めてではない。2018年9月には「向陽紅01」、2021年12月には「大洋号」、2022年7月には「遠望5」がパラオの海域で活動していることが確認されている。

昨日（5月29日）の時点で、「海洋六号」はパラオのEEZを出て、ミクロネシア連邦に向かう動きを見せている。

[原文](#)

(30<sup>th</sup> May 2023, Island Times)